時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜日休刊
〇時事新報社ヨリ直接ニ送付スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ郵便料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行五號活字廿四字詰	一		
一行　二　付	十三錢	一十一錢	一十錢五厘

本社へ寄稿に付
東京府下を始め各府縣に通信社あるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を擴張するより各社同一の記事を掲ぐるあり寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

神丹を煉り仙術を脩して長壽延命を求るの法は既に陳腐に屬し近世又長壽法を云ふ者多しと雖も其歸着する所は普通の養生論に過ぎず然るに此程或る英字新聞に記したる不老不死の新案は如何にも耳新らしき奇說にして或は實際に行はる可き望あきに非ず新年目出度き今日ふれを意譯して以て社說に代ふ

不老不死の法

近來外科醫術の非常に進歩したるは世人の能く知る所にして殊に彼のオートプラスチイとて身體の一部の損傷したるとき他より健康なる皮肉を持來りて之を繕ふの術に至ては其精巧實に人を驚かすものあり例へば火傷にて顏の糜爛したるときなどは本人若くば他人の手足より少しづゝ皮を切取りて之を傷部に植付け以て皮膚の癒合を速ならしむるのみとを得べし頭に毛なき者は禿げたる部分の皮を除き去り年若くして髮濃き人の頭の皮を取來て其跡に張り付け以て禿頭に黑髮を生ぜしむるの方あり眼を毀損したるときは猶又兎の眼球を取て傷きたる眼と入れ替へ其代用を爲さしむるのみとあり其他鼻、瞼、唇、耳等の欠けたるを補ふ至て容易きみとにして今日の醫術に於て毫も珍しとせざる所なり又此類の手術は單に身體の外部に就て行ふのみならず其肉部の込入りたる機關の損傷したるものをも治療して實効を奏す可し余が親しく知る所にて或る外科醫は盲腸の破れたる患者を治療するに羊の腸の一片を取り來りて之を繕ひ以て萬死を救ひたるみとあり扨此オートプラスチイ術の斯の如く著き進歩を爲したるに就き余は之を利用して一の長壽法を實施するみと難からずと信ずる者あり抑も人の死するや身體の諸機關都て同時に破損して其官能を止むるが故には非ずして必ず其中の一機關が次第に衰弱して活動せざるより遂に全身を殺すみとあり肺臟も心臟も胃も腸も無事健康にてありながら僅に肝臟の故障の爲めに可惜諸機關の完全あるものをして肝臟と共に運命を與にせしめ其死を傍觀して救濟の法なしとは元來醫術の事に非ず左れば今體內の或る機關が衰弱を始めたりと思ふときは速に之を取り除き他動物の健康なる機關を取り來て之に代らしむるみとゝ爲さば身體の諸機關は常に新鮮強壯にして人間社會に病死者の跡を絕つ可し例へば老人の胃の腑の働次第に衰へて食慾減退するみとも敢て醫師に托して其胃を除き去り羊か豚の胃と入れ替へて之を新にす可し然るときは忽ち大に食慾を增し消化力を強くするみと必定にして隨て身體の各部智勢力を回復して恰も全身の生れ替りたるが如く白髮の老翁も紅顏の少年に變して愉快に歲月を消する其間に又もや他の機關に損傷を生ずれば()之を除き去りて新物と交換するみとゝ家の內の造作を新にするに異ならず誠に易きみとなり但し其新陳交換の事を行ふに外科手術を施すは家の造作に職人の手を要するが如く止むを得ざる次第なれども是れとても唯一時無分を恐くする位のみとにして左程での苦痛に非ず且今後外科醫學の進歩するに隨て手術より生ずる危險は著しく減少す可きみと明なれば此點に就ての心配は都て無用なりと知る可し若しも此方法にして實際に行はるゝに至らば人間の壽命は幾千萬歲まで延ぶ可きや計り知る可からず所謂不老不死の神術とは即ち此法の如きものを指して謂ふみなるに依て千萬歲に延命したるものとては一物もなく眼は猫、肺は驢馬、胃は豚、肝臟は羊にして鼻と頭髮とは即ち舊友の賜なりと云ふが如き有樣にして父子相見ても精神ふるゝ依然たる舊時の精神にして曾て變ずるみとなきも身體は幾回か入替はりて誠に繰遠く父不父子不子の奇觀もある可しと雖も是式の不都合は不老不死の大利益に易へ難し吾々は只管外科醫術の進歩して此新陳交換の延命法を實地に行はんみとを冀望し又その行はる可き時節の到來するも必ず遠からざるを信じて疑はざるものあり

雜報

○鳩のたより　（昨日の續）

土京君士但丁堡に於て　時事新報特派員　野田正太郎

花は三月に香ばしく菖蒲は五月に見る可しと雖も人情の美花には三月五月おくれ春夏秋冬おくれ四時爛熟として咲き匂ふとかや偖も土耳其の男女は春の花見、夏の納涼秋の紅葉は云ふも愚か水呑みとまで名を附けて陰に交際の道を求め天然の愛情を遠火に温めんとするは開久たるが如く嚴冬の折おとは何れの方角に出掛けて彼の情花を咲き匂はすべき可きや西洋風おれば冬は是れ舞踏會の好時節、塞けき夜風に肌をさらして舞踏の交際場へと集るみとおれども土耳其にては夫れも叶はず左はれ陽氣室息の三冬も愛情の陽炎は春の彌生の如く燃え立ちて止まず と云ふ「木枯の果はおりけり海の底」と口ずさみて枯野見に出掛けんか土耳其の男女は悉く風流會水の如くあるを得ざれば是れも叶はず左はれ愛情の海には冬來ざるのみ玆に又朝夕印度洋の如く熱すと云ふ嗚呼此愛情を如何にせん、天の至仁なる社會の至愛なる何として此無辜の男女を苦ひべき冬季の交際場は又意外の邊に設けあるおり

東羅馬帝國の古都、土耳其帝國の首府に一大古市場あり、と云はゞ興地史略の讀者は早くも其バザルあるを知る可し何時頃の建築にか能くは覺えねど兎に角數百年を經たりと見え崩れたる壁瓦おと蒼然として古色を帶びたるが世界に有名なる古市場だけありて其廣きみと云ふばかりおく窓少き故か晝さへ薄暗きに幾千とおく通路を縱橫したれば不知案內の者は八幡知らずに入りたるが如く迷ふみとある可し左おきだに最と古き建物として一種不思議の古臭鼻を衝き何となく物凄き思ひすれど其は往來の賑ひにて紛れつ可し君士但丁堡に有りとあらゆる職業は殘らず此バザルに於て見るを得可しと云ふも過言に非ず衣食住の必要品は云ふも更らなり質屋藥屋おとの果までも此中に在り例へば東京にて新たに家を持ち一度に家の必要品を購はんとすれば未明より夕方まで車を飛ばして四方八方を駈け廻はらねばならぬみとおれど此バザルの功德として一度足を踏み入るれば ドンナ用にても早速使せざるは無しと云ふ至極の便利は招かずして來客の群集を致し希臘猶太の商人等が毫を詮度と掛引の聲は四壁に反響して蜂の巢の一時に破れたるかと疑ふ計り賣買老若押〻合へし合ひ所の橫町彼所の路次と己のがてんでに潛り行く賑はしき事共おりと云ふた計りにては興無し一歩進めて說明す可し抑も此バザルは前條の如き建築にて冬は ホットリと暖き上に餘所外と違ひ市場の事とて同じ所を何邊歩行きても後ろめたき氣遣ひさら〳〵なければ買物の有る無しに拘らず只何となく此市場を經廻る男女多し好しんば入らぬ買物して無風流なる猶太人に貪られても風流男の面目を幾百とおく詠むれば悔しき事あらじ晩酌瓦斯に重くおりし頭も天女の姿を見ては水素瓦斯の如く浮き立つみとなられん云はねど知るべし此市場は冬季の男女交際場にして彼の可憐なる男女は辛くも社會の風雪を駈け抜け我も〳〵と此市場の大ストーブに寄り集り天然の愛情を温めて自ら樂まんと欲す情を裂く風ふき寒むけれ身を切る風何かあらん、雪の降日も風の日も市場の賑ひ變なく殊に金曜日の休日は割るゝばかりの繁昌なり蜻蛉の爭は漁夫の利とおる彼の諺のそれおらで愛情の和合は猶太商人の利とゝなる偖も不思議の緣とかし造化翁の妙工風には誰も感嘆くみと叶はず土耳其の社會王はヤシもの嚴密の法を以てヅタ〳〵に男女間の交際を謝絕し家屋衣裳の細に至るまで干涉ならざる所おく一望の風景、男出雲に聳え女水地に流れて相近く館はざるが如くおれども兩性自然の愛情は造化が授けたる魔術を以て苦もおく和合の道を求め山水の差別を不可見の間に歷し去て悠優行樂する其趣は以上の數章に述べたるが如し記者の凡筆思ふ儘に寫し得ざるのみか以上は首府の所見のみに止まれども讀者は大抵の樣子を推知せられしならん土耳其の男女交際談は是にて濟むまじ、斯る不思議の社會に格別なる弊事は無きや、弊事あらば從て好事もある可し、婚姻法は如何、一夫多妻は如何、是等の問題は差詰め讀者の腹中に浮ぶ所のものにある可し記者此に於てか尙一歩を進めざるを得ず

（つゞく）

○朝鮮の通貨

朝鮮にて目下流通し居る貨幣は二種ありて其一を葉錢と云ひ他を當五錢と稱す葉錢一文は日本貨幣の一厘錢と同じく當五錢は其名稱の如く一個を以て葉錢五文に當るものとす而して斯の二種の通用する所は區域を異にし當五錢は重に京畿、江原、忠淸の三道に行はれ葉錢は重に他の五道に流通す斯く流通の場所を異にして判然區域ある次第は當五錢の鑄造は今を去る七八年前に創りて當初は信用ありたるを以て鑄造地たる京城を始め諸地には新錢の信用すべき能はず隨て當五錢は葉錢を他の地には流通するに至らず其區域僅に三道の有樣を來したる日本通貨に比較すれば所なければ葉錢一箇に當五錢一箇の價値を有する所なれば共需要供給の高き時は二圓、低き時は一圓、凡そ一圓七十錢位の日本人が朝鮮にあり錢の使用を要する人に多く貨物を賣買する人は高下の割合を割乃至廿割と唱ふるに過ぎざれば十七割と云ひ我か一圓に利當し信用を失ひ今は卅割は葉錢と同じく幾何錢と定むるも稱するが如し故に一文は一厘七毛五の商賣取引を助く幣も同國內に通用在する我紙幣の高貨の流通も亦から推して知るべし斯く高下して當て一定に於ける我が銀紙しく錢幣ある者は を以て之を買ひ其を收め其賣買の差我が弗相場と同樣ざるのみ玆に又朝夕即ち蓄藏に便は其嵩大にして人も日本紙幣ならん數ふみと容易なる國にありては貯

機關師（曲りくねる
廻るとき火夫
ひ）ヨイ八公
變だせ線路に
居るが後へ返
がなら